

経営比較分析表（平成29年度決算）

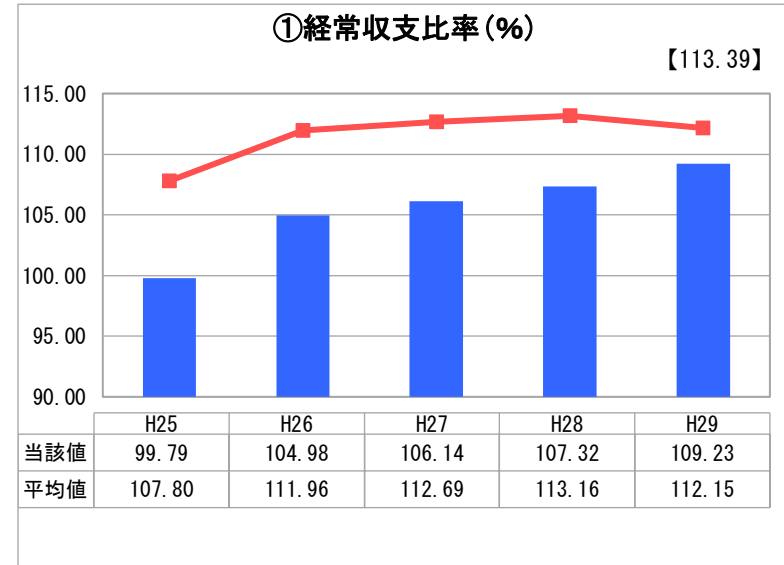
兵庫県 芦屋市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	60.09	100.00	2,484	

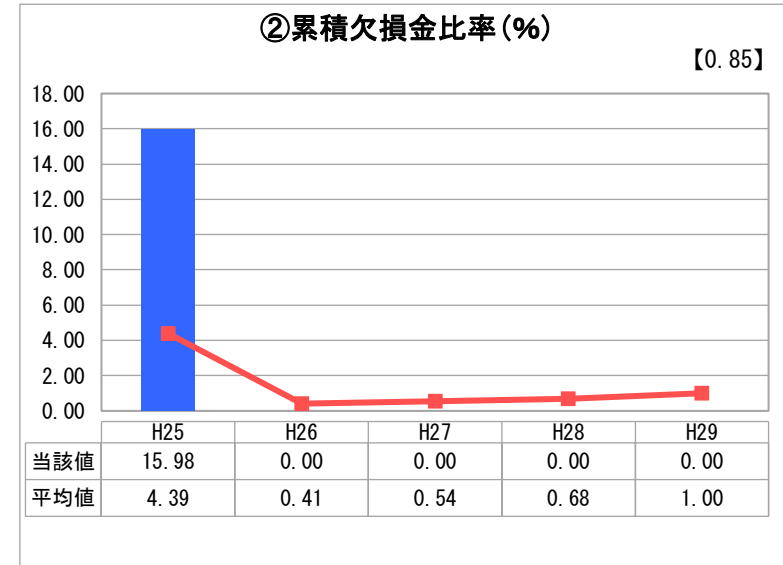
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
96,373	18.47	5,217.81
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
94,539	11.93	7,924.48

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

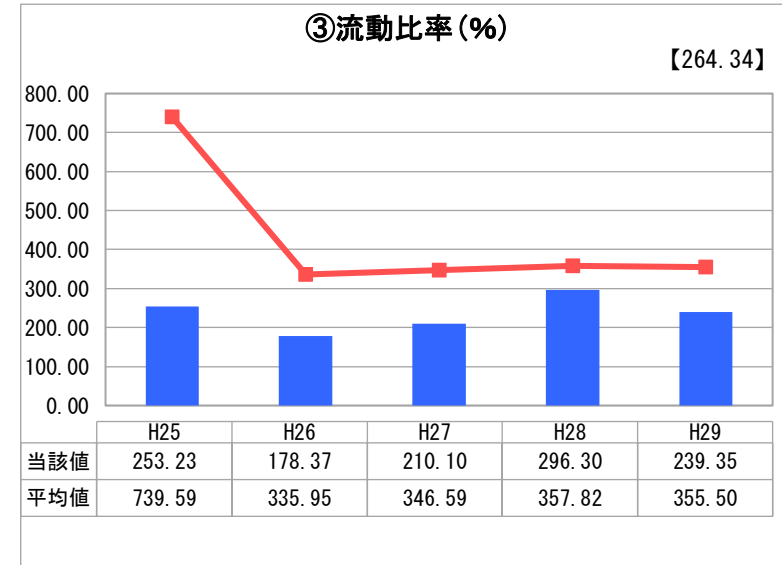
1. 経営の健全性・効率性



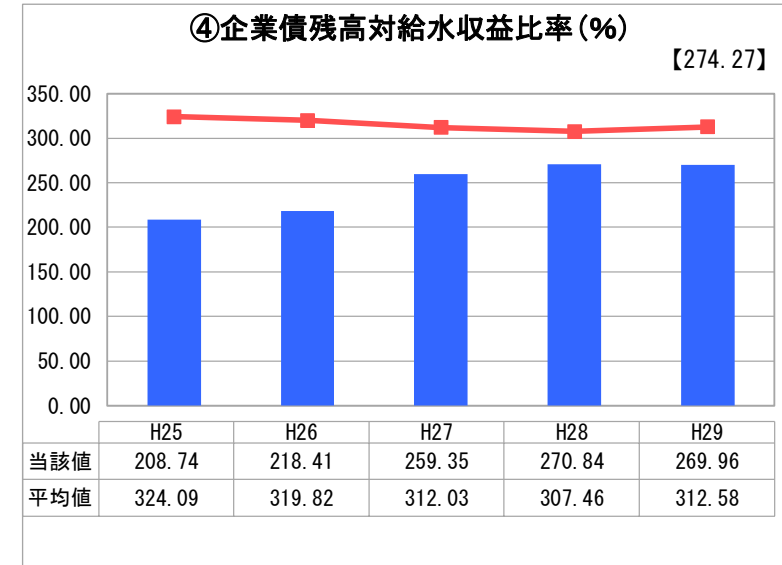
「経常損益」



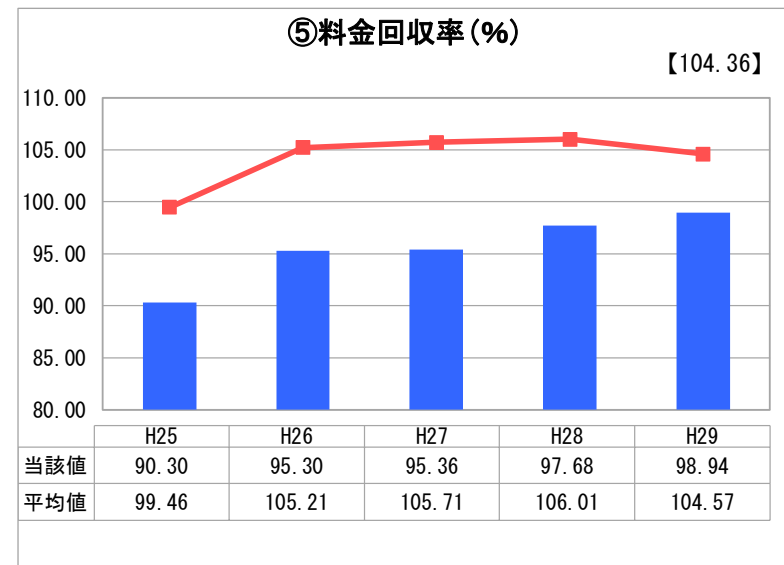
「累積欠損」



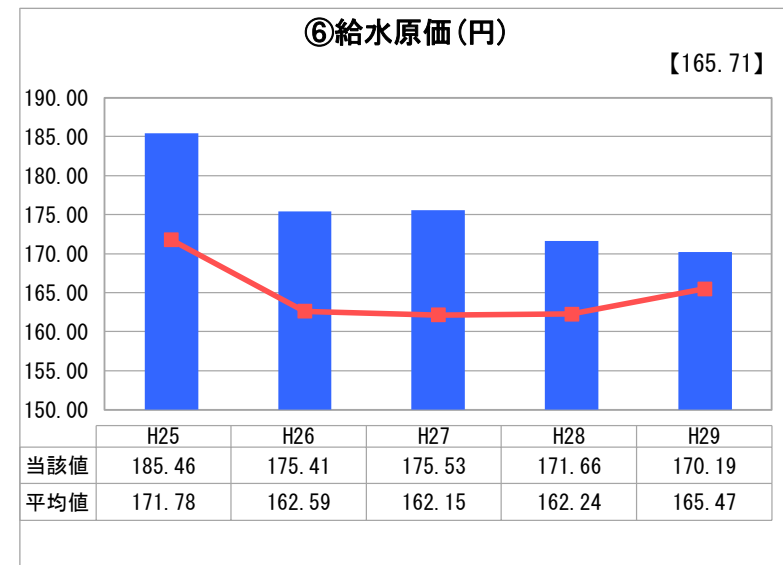
「支払能力」



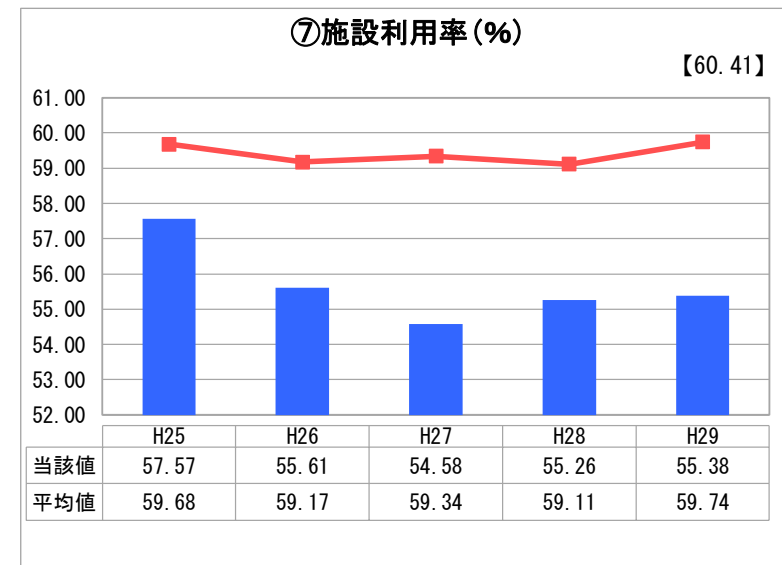
「債務残高」



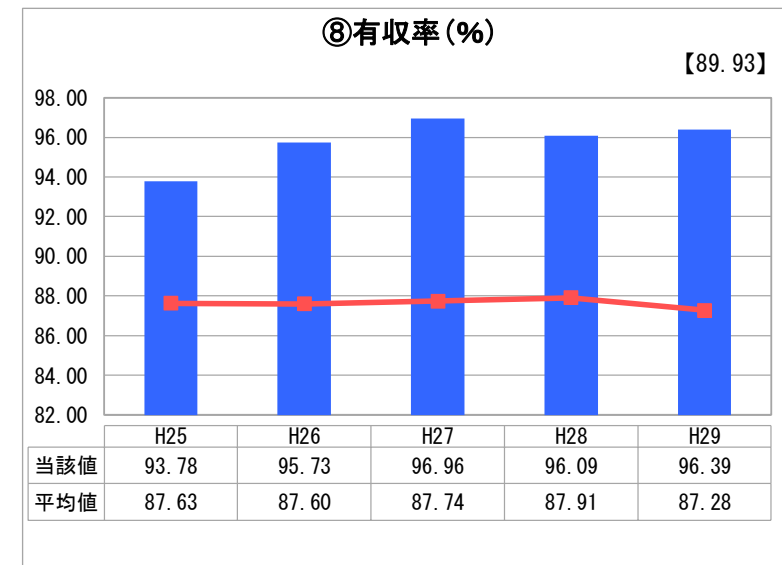
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

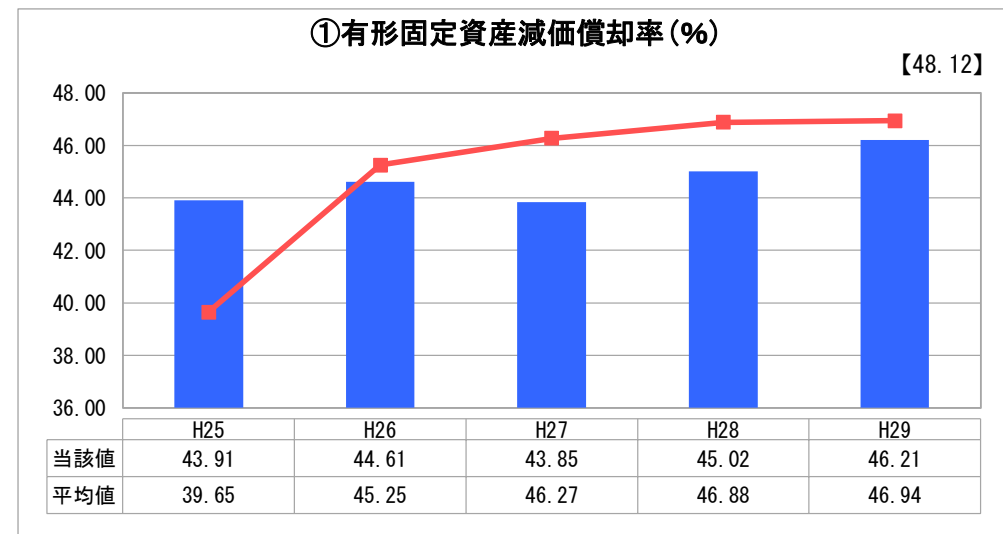


「施設の効率性」

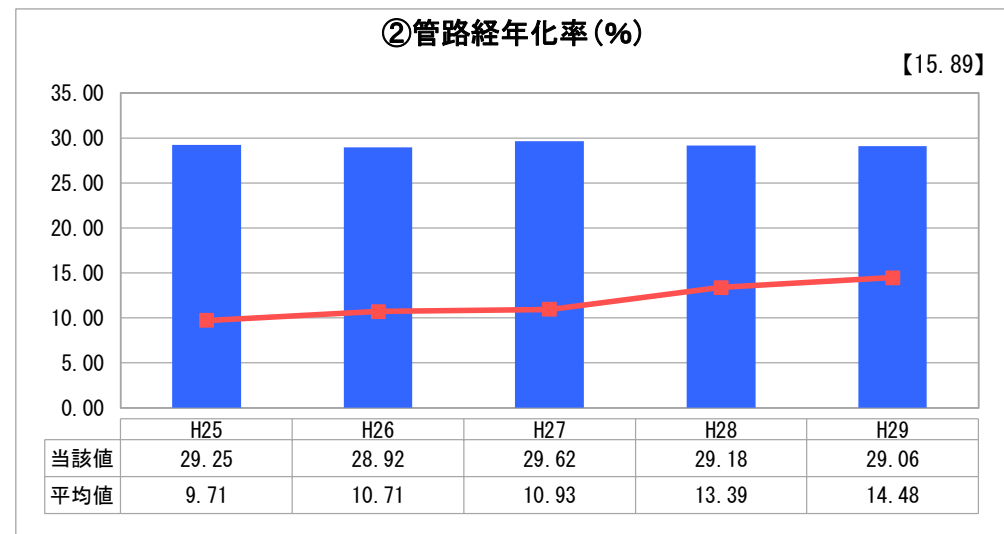


「供給した配水量の効率性」

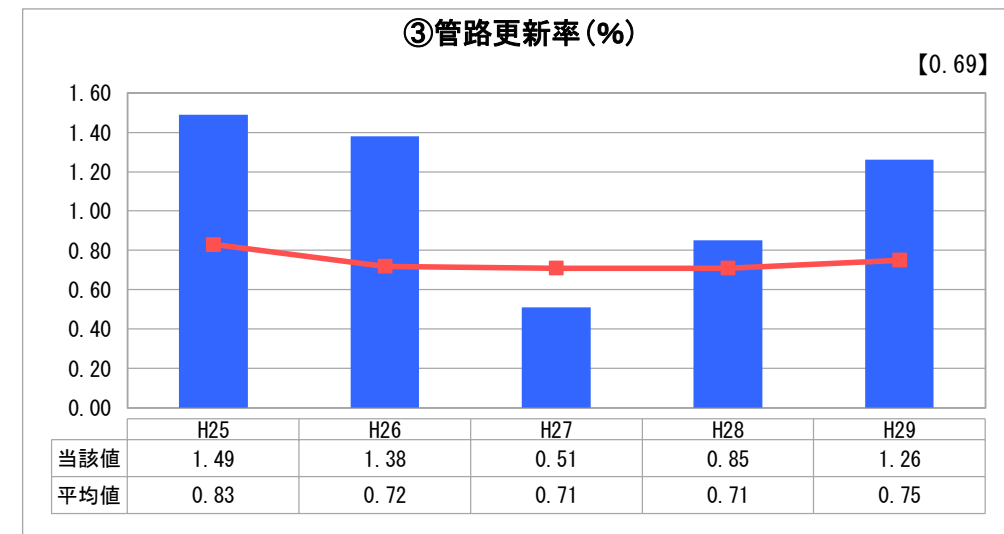
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

計画的な老朽管の更新や業務の見直しを行い、類似団体と同等の職員数を目指すなど経営の効率化を図ることで、年々、経常収支比率、料金回収率及び給水原価の指標が改善してきている。
投資に当たっては耐久性のある材料を導入し、適正に維持・保守を行い、漏水事故を減らし今後も有収率の確保に努める。
料金回収率が100%未満でありながら純利益が発生しているのは、特別利益（兵庫県住宅供給公社からの水利負担金収入等）によるものである。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率や管路経年化率が示すように、高度経済成長期に集中して投資した管路・施設の更新時期を迎えている。
更新にあたっては、整備計画や財政計画を作成し、優先順位を決め、計画的に投資を行っていく。
また、耐震性及び耐久性に優れた管路を使用して管路の更新を行い、管路経年化率及び管路更新率の改善を目指す。

全体総括

本市は他団体と比較して商業・業務施設が少ないことから大口の利用者も少ないこと、また、今後も一定量まで有収水量が減少していくことが見込まれることから、引き続き計画的な老朽施設等の更新に努めることで経営の効率化を図っていく。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。